

人文学会報

No.72

2014. 3. 17

事務局 鹿児島市下伊敷一丁目52番1号 県立短期大学文学科研究室
鹿児島県立短期大学 人文学会

電話(〇九九)二二〇一—二二

〈研究室だより〉

日本語の「うた」と脚韻

望月正道

Jポップスや演歌など日本語の流行歌謡においては(ラップを除いて)あまり脚韻が使われない。その理由は

- 1 日本語の音韻が脚韻向きでないから
- 2 日本語の文法が脚韻向きでないから
のどちらなのかを考える。

英語のポップスでは脚韻を踏むのが普通だった(最近のものは?だけ)。例えば、音楽の教科書にも載っているピーター・ポール&マリーの《Puff, The Magic Dragon》では、行末の単語が

sea Lee Puff stuff sail tail came name
boys toys more roar rain lane brave cave
のように並んでいて、2行一組で次々に

韻が変わっていくのがわかる。

ただ、英語は音韻も文法も日本語と違わずにいて、比較してもあまり参考にならない。では、中国語や韓国語はどうか?

中国語は、基本となる母音が4つで、かつて古代日本語が漢字音を学んだ頃には [p t k k] で終わる音節もあったが、現代では音節末尾の子音は [ɲ] と [ŋ] の2つだけ。日本語の5母音、末尾「ん」1つというのにかなり近い。文法構造の類型(基本の語順)は、英語と同じSVO型である(S=主語、V=動詞、O=目的語)。

中国語のポップスでも、英語ポップスのように途中で韻を変えるものがないわけではない。中には周杰伦《魔術先生》のように、頻繁に韻が変わるものもある。しかし、よく耳にするのは言わば「一韻到底」の型であり、各行末に(場合によっては5、6字ごと)同じ母音が揃って用いられているのがよく聞こえる(筆

者は中国語の意味がよくわからないので、響きに集中できる)。それを母音別に整理すると7〜10類のグループになる。(以下、
[]内はIPA(国際音声字母)、[]内はピンイン表記。[]内は行末の「韻」)。
①母音 a が響くもの (ian/yuan は [ɛ] が響くので除く)

張韶涵 《隱形的翅膀》 [a/ang]
張信哲 《上海姑娘》 [a/an/ang]

②母音 i が響くもの (円唇でイを発音する yu(i)[y] や、かなり音色の異なる zi, ci, si も含む)

吳克群 《為你写詩》 [i]
王力宏 《伯牙絶弦》 [i/in/ing/yu/yun]

③母音 u が響くもの
辛曉琪 《領悟》 [u]

蔡淳佳 《陪我看日出》 [u]
④二重母音 ai (aからiへ向かう二重母音)
信樂團 《死了都要愛》 [ai]

⑤二重母音 ao (aからoへ向かう二重母音)
林俊傑 《背对背擁抱》 [ao]

⑥母音 ei [ɛ] が響くもの (二重母音の

ei/ie/yue と鼻音を伴う ian/yuan の二類が該当。後者は好字揃いで、これだけでも使える。）

金莎《大小姐》【ei/ie/yue】

李慧珍《愛死了昨天》【ian/yuan】

TANK《全世界都停电》【ie/yue//ian/yuan】

⑦母音[e]〔オ〕が響くもの（中国語には単母音のオがなく、ou は [e+u] の二重母音、uo は [u+a] の二重母音であり、実際「翁」ではそう綴る。これらを反映して、いくつかのパターンがある。）

祖海《和諧中国》【e/uo】

容祖兒《小小》【en/eng】

林俊傑《曹操》【ou/uo】

何耀珊《擁抱》【e/ou/uo//ong】

以上の例からわかることは、中国語ポップスでは、かつての唐詩（漢詩）に比べれば種類は少ないものの、きっちり韻を踏むことが多い、ということであり、それには文末に置く目的語を自由に選べる文法構造が効いているように思われる。

次に韓国語ポップスの脚韻を考えてみる。韓国語は、単母音が7つ。音節末尾の子音は [p t k m n ŋ] の7種あって、子音終わりの閉音節が珍しくない。文法構

造の類型は、日本語と同じSOV型であり、助詞・助動詞（に相当するもの）や敬語がある点までよく似ている。

韓国語ポップスで確かに脚韻を踏んでいると感じられる例は、それほど多くない。WAX《오빠》で、曲名オッパに合わせてパに似た音を揃えている部分などがそう。一方、行末に同じ母音が並んでいるも、少女時代《Genie》のように全く同じ単語 오（見る）の命令形が並んでいるようなものは、韻を踏む努力が感じられない。倒置法や体言止めでも使わないと行末の表現が揃ってしまうのは、日本語と同様だ。

ところで、韓国語ポップスでは「です・ます体」に相当する해요体（へヨ体）の使用頻度が、結構高い（平成二十四年三月卒業の是枝綾香さんが、東方神起の韓国語版・日本語版の丁寧語を比較していた）。해요体は必ず요かㅏが文末に来るので、行末が揃ってしまう。例えば、Super Junior-M の《Blue Tomorrow》では、中国語版が ian/yuan 一韻到底の脚韻を踏むのに対して、韓国語版の方は해요体で韻が感じられない。

このように、韓国語ポップスでは日本語よりも複雑な音節構造を生かしきれず、

韻を踏むのに苦労している。「響き」という点ではむしろオノマトペ（擬声語・擬態語）の方が面白いし、よく目立つ。

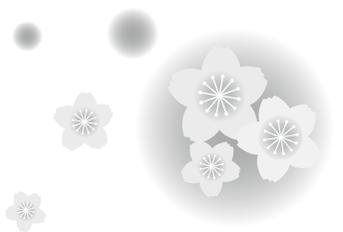
結論としては、中国語・韓国語との比較から判断すると、

2 日本語の文法が脚韻向きでないからの方に分があるように思われる。

（これは後期の「日本語学講義」の授業で取り上げ、国分高校での出張講義でも扱った内容をまとめたものです。）

（校正時に楊先生から、音節末にはハ音もある旨の御指摘をいただきました。北方音のせいか歌でもあまり耳にしなかったので失念していましたが、たしかに花兒樂隊《鵲橋匯》でㄹとㅏが交互に行末にくる部分があります。）

（文学科日本語日本文学専攻准教授）



仕事の魅力・魅力ある仕事

佐藤 歩

今、私は高速船の中でこの原稿を書いている。日帰りの甕島取材の帰路だ。

ところで作文を書くのはいつ以来だろう……。青い海と空が飛ぶように過ぎ去っていく。気持ち良さそう……。(いけない、いけない。一行目ですすでにペンが止まっている。書かねば……。)

私の勤めている会社は映像の制作会社。カメラマンが十数名、ディレクターが約十名、編集エンジニアにオーディオディレクター、が在籍している技術集団だ。私は一応ディレクターとよばれる仕事に就いている。ただ二十年以上この仕事をやっていても、まだまだ発展途上。完璧な作品を作れていないのが現状である。

主な仕事はテレビ番組の制作や、官公庁・企業のPRビデオ、テレビ・ラジオのコマーシャル制作。あとイベント運営だ。これだけ聞くと、とても格好良く見え、よく憧れられる職業だが現実には厳しい世界。(……とここであまり大きく否定

すると夢も希望もない仕事に思われるがそういうことはない。)

ディレクターの仕事は奥が深い。番組テーマに沿ったネタ探し。リサーチして企画書作り。企画が通ればさらに深くリサーチをし、構成台本を作成。取材に臨む。現場ではカメラマンやレポーターに指示を出し、自分のイメージした構成に沿って撮影を行なっていく。ただ想定外のことが起こることは度々。思ったようなインタビューコメントが引き出せなかつたり、と思えば想像以上に美しい風景が撮れたり。そこは臨機応変に対応し、考えていた構成をその場で変更修正する判断力が求められる。取材を終えると編集。1時間の番組ともなると、1週間くらいは編集漬けである。

徹夜だつてよくあること(ただ最近はやさしいか、徹夜をすると次の日にこたえる)。編集しながらナレーション原稿を作成。そしてアナウンサーやナレーターで録音。BGMを挿入し、作品完成となる。コマーシャルやPRビデオ等も基本的な流れは同じである。もちろん、ディレクター一人で作品を作っている訳ではない。多くのスタッフの協力あつての作品であり、また出演して下さる方々、スポ

ンサーの方々、ひいては視聴者あつての作品である。

ちなみに入社してすぐこの一連の作業ができるわけではない。作業の流れを頭では理解していても、作品を作るといふのはそう簡単なことではない。日々の積み重ねと、常に色んなものを見たり聞いたりして勉強し、アンテナを張り巡らせることが大切。冒頭にも書いたが、二十年以上経つても完璧といえる作品は出来ていないし、きつと終点はない。(それは何の仕事にしてもそうであると思う。)

ところで、この仕事の魅力は何といっても鹿児島県内各地のいろんな事を知ることができること。風景・食・文化・歴史など、とにかく鹿児島って素晴らしいところだなと、取材を通してその都度感じる。その素晴らしさの背景にあるのはやはり『人』。これまで取材先で出会った多くの人々に癒され、励まされ、勇気をもたらした。私は『人』が大好きである。『人』と話すのが、関わり合うのが好きである。だからこの仕事をしているのだと実感する。

結論。私の仕事は『人』の魅力を、そして『鹿児島』の魅力を、映像を通して視聴者に伝える仕事である。

どこかで私たちスタッフ一同が作った作品に出会っていただけたらうれしい。

今、思うこと

川原 みゆ

ところで、甕島帰りの高速船内で書いたのは結果最初の数行のみ。船外の青い海と空の美しさに見惚れ、ペンを持つ手が止まってしまったのは言うまでもない……。

(平成四年三月日本語日本文学専攻卒業、ライコー株式会社)

県短を卒業し、社会人として働き始めてから、早いもので5か月が経ちました。ようやく職場の雰囲気にも慣れ始めたものの、入社したての頃と変わらず、今もなお勉強の毎日です。

私は、南日本書道会で働いています。就職活動をしていた頃を思い返すと、今、私がこの職場で働けていることは本当に奇跡のように感じます。そして、改めて、当時お世話になった先生方や友人、特に学生課の内田さんや永徳さんに対する感謝の気持ちでいっぱいです。

私が就職活動を始めたのは、1年の冬頃でした。不景気で就職難が騒がれていたなかで不安を感じていた私は、できるだけ早く内定をもらいたい一心で、積極的に企業の説明会に参加し、就職試験に挑戦していました。しかし、焦る気持ちとは裏腹になかなかよい結果には結びつかない日々。何枚も履歴書を書いては、面接指導を受け、不採用通知をもらう繰

り返しに、徐々に諦めの気持ちが大きくなっていききました。そのような折、内田さんから勧められ、私も前々から興味があった書道会をこれで最後という気持ちで受けました。内定をもらえたのは、大変幸運であり、周りの方々のおかげだと思います。

働き始めたのは4月1日で、入社式でもありました。研修期間がなく、いきなりの業務開始だったので、職場の先輩方の丁寧なご指導のおかげで仕事を覚えられています。私自身、中学生まで出品していたので、漠然とした仕事のイメージを抱いていましたが、入社してみると知らないことばかりで、会員様を思った細やかな対応が求められているのだと日々実感しています。書道会では、毎月行われる月例の業務の他に、書林の展覧会である七夕展や硬筆展など一年に一回の業務もあるため、毎月同じ仕事をすることはありません。月例の業務としては、会員様から送られてくる競書作品を審査会までに整理し、審査後、パソコンで成績を打ち込み、本に仕上げ、発送準備をし、荷造り、会員様に本をお届けする、という流れです。会員様が一ヶ月かけて



お菓子の世界

木佐貫 綾

練習された競書を預かるため、どの業務においても、責任を持って臨まなければなりません。また、七夕展や硬筆展があるときは、月例の業務に並行してしなければならぬので、丁寧さだけではなく、早さと効率も求められます。

働いていて日々感じるのは、グループワークであるため、一人のミスが全体に迷惑がかかるということです。今の私では、自分のミスでさえ、一人では処理できず、いつも先輩に迷惑をかけてしまっています。ミスをするたびに、自分の力不足を感じ、悔しく思います。しかし、そのようなどきいつもさりげなくフォローしてください。先輩方がいる私は、とても恵まれた環境にいると思うとともに、その環境に甘んじることなく、早く完璧に仕事をこなせるようになりたいと強く思います。

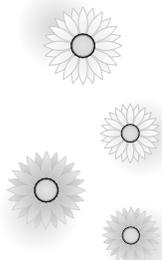
学生の頃に短期のアルバイトしか経験がなかったのが正社員としていきなり社会に出て、最初は戸惑うことばかりでした。また、自由に自分の時間を多く持っていた学生の頃とはまるで違う忙しい毎日、身体がついていけないこともあります。

そのような時に力をもらうのは、たまに会員様から競書と一緒に送られてくる「ありがとう」と書かれた手紙です。私が今ここで頑張っていることはちゃんとほかの人に伝わっているのだと実感することができます。

一年以上を費やした就職活動は、今振り返ってみてもつらい一年間でした。努力しても意味がないのではないかと思うことも少なくありませんでした。しかし、今では、たとえすぐには結果には繋がらなくとも、努力し続けることが大切だと心から思います。

最後になりましたが、今後の在校生の皆さんのご健闘と鹿児島県立短期大学のご発展を心より祈っております。

(平成二十五年三月日本語日本文学専攻卒業、南日本書道会)



県短の英文を卒業して、気が付けばもうすぐ一年と半年が経とうとしています。卒業と同時に一人暮らしも始め、社会人生活も毎日慌ただしくどんどん過ぎていきます。私はパティスリーフレンチブールという洋菓子店で製造の仕事をしています。小学生の頃から夢だったパティシエです。どうして英文からケーキ屋さん？と思う方もいるのではないのでしょうか。私は県短卒業後、製菓専門学校に行き、お菓子の勉強をして、そこからケーキ屋さんで働こうと県短入学当初は考えていました。しかし、短大在学中に様々な人と出会い、話をする中で、専門学校には行かずに就職をしようと決めたのです。

私は、短大在学中の二年間、洋菓子に携わるアルバイトをしていました。そこで働く中で、憧れの職業パティシエさん達の姿を間近で見たり、実際に話をしたりして、自分もこうなりたいという強い思いや、憧れ、夢がどんどん大きくなっていきました。この中で、あるパティシ

エさんと出会い、わたしはとても尊敬の気持ちを持つようになり、いつかこの方と一緒に働きたいと思うようになりました。この時までビヨコにもならない私は、一気にお菓子の世界が大きくなったと感じました。この方が今働いているフレンチブルーのオーナーです。縁があつて、働けることになりました。

いよいよ私のお菓子の世界での仕事がスタートしました。朝が早いことに覚悟はしていましたが、入社当初、遅刻を何度もしてしまいました。今頃になってようやく朝に強くなってきました。朝は7時前くらいから、まず店頭と並べる生ケーキの仕上げから始めます。デコレーションケーキを作る人もいれば、モンブランのクリームを絞る人もいて、前日に巻いておいたロールケーキをカットする人もいます。みんなで分担して、開店に間に合うように、どんどん仕事を進めていきます。この朝の仕事を朝出しといいますが、一分一秒が大切になってきます。今自分がしている作業のことだけを考えるのではなく、次は何をして、またこの時、あの人は何をするから、私はこうしたらいいかなと、広く周りを見て仕事をします。先のこととまたその先のこ

とを考える、自分以外の周りの人のこともしっかり見るのがとても大事だと、教えてもらいました。今でも、これはなかなか私にとつて難しいことで、日々反省と、挑戦です。そして、開店前にはみんな朝礼をし、お店がオープンして、無事に朝出しを終えると、仕込みに入ります。今私は、焼き場を担当しています。シフォンケーキを焼いたり、ロールケーキを焼いたり、スポンジを焼いたり、焼き菓子を焼いたりします。焼きを担当するようになってから、やけどを多くしてしまいました。やけどした瞬間は、「熱っ」と一瞬ですが、後からやけどの跡を見ると、一瞬では済まない、大変なことをしてしまったな、という気持ちになってしまいます。小さな事故が何度も続くと、大きな事故につながるとオーナーにも言われているので、少し慣れてきた今、初心に帰って日々気を付けていきます。しかし焼きの事は、難しいけれど、面白いです。生地混ぜ具合、温度、時間、タ

イミング、いろいろな条件がピッタリ合っ

のスタートに立ったのかなと思います。

専門学校で勉強もせず本当にゼロから出発の私は、フレンチブルーでイチから教えていただいています。しかし、ここは私の学校でもなく、私の練習の場でもありません。受け身の姿勢になりがちなのは、ここをもっと変えていかななくてはなりません。小さい頃からやりたかったことができ、それだけで幸せですが、今は、もっと知りたい、できるようにになりたいことがいっぱいあります。日々勉強して、向上心を忘れず挑戦していきます。

最後に、みなさんフレンチブルーを知っていますか？ 県短からもすぐ近くなので是非一度足を運んでみてください。もしかしたらお気に入りのお菓子に出会えるかもしれません。

(平成二十四年三月英語英文学専攻卒業、パティスリーフレンチブルー)



日本エアコミューターに 入社して

富安 菜緒子

県短文学科のみなさんこんにちは。私は日本エアコミューターに入社して、2年目になりました。私の仕事は、客室乗務員です。日本エアコミューターは、74人乗りと36人乗りの2種類の飛行機を11機ずつ、計22機で鹿児島島の離島や大阪、福岡、松山などへの20数路線を飛びます。一日に4便、多い時は5、6便飛びます。74人乗りの飛行機は2名乗務、36人乗りの飛行機は1名乗務で仕事をしています。

し万一のことが起きたら、この手荷物は脱出の妨げにならないだろうか。飛散して、お客さまがお怪我をしないだろうか。」といったことを考慮して、お客さまに正しい場所への収納を協力依頼します。また、飲み物をお配りしている時も、温かい飲み物で大人のお客さまはもちろん、小さなお子さまが火傷をしないよう飲み物の温度に気を配るなど、常に、危険を察知してその事前予防をすることが求められます。

最初に少し述べましたが、2名乗務と1名乗務の飛行機があり、入社して約半年後に2名乗務の飛行機の、先任と呼ばれるチームリーダーの資格を取る訓練がありました。先任は、もう一人の客室乗務員に、仕事の指示をしたり、全てのお客さまのご様子を把握したり、その飛行機の客室の責任者として、行動しなければなりません。また、チームリーダーの資格を取った後は、1名乗務の飛行機に乗るための資格を取る訓練もありました。1名乗務なので、全てを1人で判断し、行動しなければなりません。

入社当時は、仕事の内容や生活リズムに慣れることに精一杯で、今振り返ると、あの時の私は、ただがむしゃらに仕事を

こなしていた気がします。入社して2年が経ち、チームリーダーの資格や1名乗務の資格を取った今、思うことは、社会人として、客室乗務員としての責任感を持ちながら、少しずつではありますが、判断や行動が出来るようになったのではないかとことです。もちろん毎日仕事をするうえで、辛い経験や失敗もたくさんあります。自分の行動がお客さまを不快にさせてしまったり、満足のいくサービスが出来なかったりした時は、自分の未熟さに落ち込む時期もありました。そのような時は、同期や先輩方に相談し、自分がどうするべきだったのかを一緒に考えたり、アドバイスをもらったりします。辛い経験も失敗も、自分の成長過程だと考えたら、乗り越えられると思います。楽しいことも嬉しいことも今までにたくさん経験しました。お客さまから、自分宛てのお手紙や、小さいお子さまから折り紙を頂いたり、サラリーマンの方が、「すごく楽しかったです。」とおっしゃりながら飛行機を降りていかれたりしたときは、この仕事をしていて良かったな、と思います。また、何でも相談出来て、一緒に笑ったり泣いたりできる大切な同期や、優しく時には厳しく、仕事の

アドバイザーをくださる先輩方に見守られて、私は本当に恵まれていたと感じます。ジェット飛行機に比べたら、小さい飛行機ではありますが、そのなかでお客様さまに、「この飛行機に乗って良かった。」と言っていただけのように、これからも毎日の仕事のなかで、たくさんのお事勉強し成長していきたいと思えます。

(平成二十四年三月英語英文学専攻卒業、
日本エアコミューター株式会社)



彙報

◎二〇二二年度人文学会行事日程

八月三十一日『人文』第三十六号発行

十一月三十日「人文学会報」

第七十号発行

二〇一三年

三月十八日「人文学会報」

第七十一号発行

四月二十六日 教員総会(拡大評議員会)

◎役員交代

(会長) 望月

(評議員) 中谷、楊

(事務局) 望月から中谷へ

以上、二〇一三年四月二十六日

教員総会(拡大評議員会)にて決定

◎会計報告は七十二号に掲載します。



学園春秋

区分	職名	氏名	異動年月日	備考
採用	教授	昇任		
講師	教授	フリーツブ アダメック	25・4・1	文学科 英語英文学専攻
篠田 剛	遠峯 伸一郎	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
採用	教授	〃	〃	商経学科 経済専攻

《編集後記》

卒業生の原稿をはやくに預かっていただいたのに、今回も発行が遅くなってしまい、申し訳ありません。

なお、今後『人文学会報』は鹿児島県立短期大学の文学科ホームページ(アドレスは <http://www.k-kentan.ac.jp/lit/>)にも掲載する予定です。卒業後もときどきチェックしてみてください。(望月)

